

平成 30 年 6 月 19 日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K08808

研究課題名(和文) タンザニアの地方保健センターにおける実践適応科学の試み

研究課題名(英文) Measuring the Impact of Community Participation in Health Facility Planning in Two Rural Districts of Tanzania

研究代表者

佐藤 美穂 (SATO, Miho)

長崎大学・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・助教

研究者番号：40607256

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、初年度に10施設のヘルスワーカーに動機付け調査、患者に満足度調査を実施し、それぞれ72名、206名が参加した。同様の調査は研究最終年度にも実施され、動機付け調査に52名、患者に満足度調査に254名が参加した。患者の特性としては、84%が女性、平均年齢28～29歳、既婚者が6割強、約半数が初等教育を修了している。7割が県内出身者である。公的健康保険加入率は最終年度の割合が初年度の割合の2倍であった。ヘルスワーカーの特性は、6割強が女性、平均年齢は36～39歳、平均在職年数8年、現在の施設での平均勤務年数6年、約65%のヘルスワーカーが中等育以上の教育歴を有していた。

研究成果の概要(英文)：The quantitative survey was conducted at the beginning and at the end of the research period at ten study health facilities. For the first year, we conducted a motivation survey among health workers and a satisfaction survey among patients. Seventy-two health workers and 206 clients participated in the study. For the last year, the same surveys were conducted involving 52 health workers and 254 patients.

The patients' characteristics included: 84% female; average age of 28 to 29 years; over 60% of them were married; about half of them have completed primary education; and about 70% of them were originally from the District where they live. The characteristics of the health workers included: 65% female; average age of 36 to 39 years; average length of working was eight years; average years of working in current health center was six years; and over 65% of them had studied beyond secondary level education.

研究分野：国際保健(保健システム)

キーワード：住民参加 保健計画 タンザニア

1. 研究開始当初の背景

タンザニアでは県保健局が毎年策定する県総合保健計画 (Comprehensive Council Health Plan, CCHP) に、県下の各保健医療施設の年間計画が添付されることになっている。この保健医療施設計画は、各保健医療施設に設置されるコミュニティ保健委員会構成員 (ヘルスワーカーと地域住民代表の計 5 名から構成) の参画、協働により策定されるべきであるが、実際のところ CCHP に保健医療施設計画が添付されることはほとんどなかった。

従って本研究では、コミュニティ保健委員会による保健施設計画策定プロセスが、住民とヘルスワーカーにとって質の担保された保健サービスを受ける・提供する動機づけとなり、その結果、住民が主体的に地域の保健活動に参画するようになる、という仮説のもとに、介入研究を実施した。

2. 研究の目的

本研究の介入を受けた保健センターは、介入前と比べて保健センター利用者数、利用者の満足度、ヘルスワーカーの動機づけの改善が見られる、という仮説に基づき、本研究は定量的、定性的手法を用いて年間施設計画策定における住民の参画という介入の効果を検証することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は混合研究法を用いた。介入研究では、タンザニア本土南部に位置するリンディ州 (図 1) の 2 県内の 10 の保健センターを、5 介入施設と 5 対照施設にランダムに割り付けた (キルワ県 3 介入施設、リンディ県 2 介入施設)。介入の効果は質問票を用いた定量的調査を介入実施前後の 2 度測定した。併せて、介入前調査後に定性的調査を実施することにより、定量的調査結果の理解に役立てた。



図 1. タンザニア本土地図

4. 研究成果

研究初年度 (H27) には、2 県 5 施設に設置された保健センター委員会の構成員計 29 名に、介入 (保健施設計画作成のための研修) を実施し、同時に、ベースライン調査として対象 10 施設のヘルスワーカーに動機づけ調査、患者に満足度調査を実施し、

それぞれ 72 名、206 名からデータを収集した。研究 2 年目 (H28) には介入施設保健センター委員会構成員と 2 県の県保健局へのフォーカス・グループ・ディスカッションを実施した。最終年度 (H29) には、エンドライン調査として、10 施設のヘルスワーカーに動機づけ調査、患者に満足度調査を実施し、それぞれ 52 名、254 名からデータを収集した。

患者の特性としては、84% が女性、平均年齢 28 ~ 29 歳、既婚者が 6 割強、約半数が初等教育を修了している。7 割が県内出身者で、公的健康保険加入率はエンドライン時が約 24% と、ベースライン時の約 12% から倍増した (表 1)。

表 1: ベースライン、エンドライン時の患者の特性

ベースライン時: 患者 (N=206)

性別	年齢	婚姻状態	学歴	出身地	健康保険
女性	28 歳	独身 20.6%	非識字 36.5%	県内出身	加入
84.2%		既婚 68.1%	就業前 7.4%	76.5%	11.8%
男性		死別 4.4%	初等教育	州内出身	
15.8%		離婚 6.9%	48.3%	10.3%	
			初等後教育	州外出身	
			0.5%	13.2%	
			中等教育		
			6.4%		
			中等後教育		
			0.5%		
			大学 0.5%		

エンドライン時: 患者 (N=254)

性別	年齢	婚姻状態	学歴	出身地	健康保険
女性	28.5 歳	独身	非識字	県内出身	加入
83.5%		24.0%	28.3%	74.0%	23.6%
男性		既婚	就業前	州内出身	%
16.5%		67.3%	6.3%	13.4%	
		死別 2.0%	初等教育	州外出身	
		離婚 6.7%	50.4%	12.6%	
			初等後教育		
			0.4%		
			中等教育		
			13.0%		
			中等後教育		
			0.4%		
			その他 1.2%		

ヘルスワーカーの特性は、6割強が女性、平均年齢は36～39歳、平均在職年数8年、現在の施設での平均勤務年数6年、65%のヘルスワーカーが中等教育以上の教育歴を有する。調査に参加したヘルスワーカーの職種については、ベースライン時とエンドライン時では、看護職の割合が最も高く、38%ほどであり、次に多いのが、Medical Attendant(医療行為を行わない医療助手的な職種)であるが、ベースライン時はその割合が34%であったが、エンドライン時には27%に減少していた(表2)。

**表2 ベースライン、エンドライン時のヘルスワーカーの特性**

ベースライン時: 医療従事者 (N=72)

性別	年齢	婚姻状態	学歴	職種	出身地
女性 64.3%	36.3 歳	独身 40.6%	初等 教育 22.9%	Medical Attendant 34.3%	県内 出身 39.1%
男性 35.7%		既婚 56.5%	中等 教育 68.6%	Nurse 27.1%	県外 出身 60.9%
		死別 2.9%	中等 後教 育 8.6%	Asst Ns Ofcr 11.4%	
				Clinical Ofcr 7.1%	
				Lab Tech 5.7%	
				Asst Lab Tech 5.7%	
				Asst Med Ofcr 4.3%	
				Pharm Tech 1. 4%	
				Asst Dent Ofc r 1.4%	
				Asst Env H Of cr 1.4%	

エンドライン時: 医療従事者 (N=52)

性別	年齢	婚姻状態	学歴	職種	出身地
女性 65.4%	35.5 歳	独身 36.5%	初等 教育 30.8%	Medical Attendant 26.9%	県内 出身 30.8%
男性 34.6%		既婚 59.6%	中等 教育 38.6%	Nurse 19.2%	県外 出身 61.4%
		死別 2.9%		Asst Ns Ofcr 1	

3.8%	教育	9.2%	出身
離別	65.4	Asst Acct 9.6%	69.2
1.9%	%	Asst Env H Ofcr	%
	中等	5.8%	
	後教	Laboratory Tec	
	育	h 5.8%	
3.8%		Asst Lab Tech	
		3.8%	
		Asst Med Ofcr	
		3.8%	
		Asst Dent Ofcr	
		1.9%	
		Comm H Wkr	
		1.9%	
		Med Recorder	
		1.9%	

本研究期間中には、研究内容に影響を与える2つの出来事があった。一つはタンザニア保健省による「県総合保健計画」策定のためのガイドラインの改訂である。このガイドラインの改訂は研究初年度のベースライン調査後に実施された。研究初年度の2月に介入施設のコミュニティ保健委員会構成員を対象に、新ガイドラインの変更点について、リンディ州保健局職員による研修を実施した。さらに、この新ガイドラインに伴う保健省の新たな方針では、各保健医療施設の年間計画を「県総合保健計画」に添付することが義務付けられた。各保健医療施設の年間計画作成、提出の義務化、さらに研究チームによるさらなる介入(研修)により、研究2年次には研究対象全ての10施設で年間計画が作成されていた。

もう1点はタンザニア国大統領による、学歴を詐称した公務員の徹底調査と該当者の罷免である。2017年4月28日、マグフリ大統領は、採用時の卒業証書を偽造した公務員9,932名を免職し、うち7,304名はヘルスワーカーであった。保健省は直ちに新たなヘルスワーカーの配置に取り掛かったが、エンドラインの時点で、5つの介入施設全体のエンドライン時のヘルスワーカー数はベースライン時の85%であった。介入施設である5か所の保健センターにおいて、少なくとも1人のヘルスワーカーが罷免され、5施設全体での罷免者の総数は10名であった(ベースライン時の5施設のヘルスワーカー総数の16.7%。10名の内訳は看護師2名、検査技師1名、医療助手7名であった)。また、エンドライン時には各保健センターに1名ずつ新たな職種である経

理アシスタントが配置されており、別途新たに導入された、保健センターの会計処理のコンピュータ化を担っていた。

また、5か所の介入施設のうち、2つの保健センターではコミュニティ保健委員会構成員の任期が満了したため、研究最終年度には一つの施設では全員が新メンバー、もう一つの施設では新メンバーと旧メンバーが委員会に混在していた。

患者への保健医療サービス満足度調査、さらに、ヘルスワーカーの動機付け程度の調査のベースライン時、エンドライン時の比較については現在解析中である。

質的インタビューから得られた結果によると、以下の主な状況が明らかになった。

- ・ コミュニティ保健委員会構成員(以下構成員と略)の選出は保健省ガイドラインに則った方法が適用されていない。

- ・ 殆どの構成員が構成員の役割と責任について明確に理解していない。

- ・ 予算不足の理由で定期的な構成員の会合が予定通りに開催されていない。

- ・ 保健センターは(県保健局の支援なし)で自力で年間施設計画を作成するが、その計画に関し、県保健局からのフィードバックが欠如するのみならず、施設独自の活動を可能にする予算配分が皆無である。

患者への保健医療サービス満足度調査、さらに、ヘルスワーカーの動機付け程度の解析結果が待たれるところではあるが、新制度の導入により、各施設の年間保健計画が「県総合保健計画」の一部を成したとは言え、その実質、つまり、現実的な計画の策定、運用、計画実施を支援するための県保健局からの定期的な監督・支援がまだまだ追いついていない状況にある。

2017年7月より、タンザニア政府では、従来のように財務省から県保健局のみに交付金を振り込むのではなく、県保健局に加え、保健センターの銀行口座にも直接交付金が振り込まれることになった(そのため経理アシスタントが配置された)。この直接的交付金制度により、保健センター、並びにコミュニティ保健委員会による年間保健施設計画、その予算案の作成がこれまで以上に重要になってきている。これは、コミュニティ保健委員会の役割、予算執行に見合った保健センターのサービスの質の向上がより重要視されていることに他ならない。

今後、本研究成果を論文として発表し、タンザニアのユニバーサル・ヘルスカバレッジ達成のための「コミュニティ保健委員会」の重要性をエビデンスとして提示したい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

Sato M, Maufi D, Mwingira UJ, Leshabari

MT, Ohnishi M, [Honda S.](#) (2017)

Measuring three aspects of motivation

among health workers at primary level

health facilities in rural Tanzania. PLOS ONE

12(5): e0176973.

〔図書〕(計1件)

佐藤美穂 . 2017 . 「エイズと聖水 : HIV の治療活動に携わる NGO の活動」 . 宮脇幸生 編 『NGO とアフリカの市民社会』 pp. 124-149 .

〔産業財産権〕

該当なし。

〔その他〕

該当なし。

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 美穂 (SATO, Miho)

長崎大学・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・助教  
研究者番号 : 40607256

(2) 研究分担者

本田 純久 (HONDA, Sumihisa)

長崎大学・医歯薬学総合研究科(保健学科)・教授

研究者番号 : 90244053

(3) 連携研究者

該当なし。

(4) 研究協力者

Deogratias Maufi

タンザニア大統領府地方自治庁・Senior Health Administrator